

戦後における附属幼稚園の歩みと幼稚園教員養成

－奈良教育大学附属幼稚園史（その3）－

玉村公二彦

（奈良教育大学 教職開発講座（教職大学院））

板橋孝幸

（奈良教育大学 学校教育講座（教育学））

横山真貴子・廣瀬聡弥・佐川早季子

（奈良教育大学 学校教育講座（幼年教育））

竹内範子・長谷川かおり・木村公美・丸尾晶子・山本祐子・百村美代子・清水智佳子

（奈良教育大学附属幼稚園）

大原千晶

（奈良教育大学大学院 学校教育専攻 教育臨床・特別支援教育専修）

Brief History of the Kindergarten attached with Nara University of Education and Initial Teacher Education for Kindergarten Teachers

Kunihiko TAMAMURA

(School of Professional Development in Education, Nara University of Education)

Takayuki ITABASHI, Makiko YOKOYAMA, Souya HIROSE, Sakiko SAGAWA

(Department of School Education, Nara University of Education)

Noriko TAKEUCHI, Kaori HASEGAWA, Kumi KIMURA, Akiko MARUO,

Yuko YAMAMOTO, Miyoko HYAKUMURA, Chikako SHIMIZU

(Kindergarten attached with Nara University of Education)

Chiaki OHARA

(Graduate School of Nara University of Education)

要旨：奈良教育大学附属幼稚園は、附属小学校後援会による設立（1927年）以降、戦前には女子教員の養成の一翼を担い、戦後には教育改革の下で再出発し、戦後幼稚園教育のモデルを示してきた。本報告では、戦後の附属幼稚園の歩みについて、それぞれの時期の特徴を概括的に示し、さらに、1969年度より発足する幼稚園教員養成課程の設置によって、大学での幼稚園教員養成の一環となっていく過程を概観した。戦後幼稚園教員の養成という点では、教員養成を主とする学部として計画養成が強められていく中で、4年制大学での幼稚園教員養成、奈良女子大学臨時幼稚園教員養成課程（1968年廃止）と奈良教育大学幼稚園教員養成課程の設置（1969年）の関係なども検討課題となることが示唆された。奈良においては、戦前から二つの附属幼稚園が存在し、それぞれ切磋琢磨しながら、役割や特色を発揮してきたことを、歴史的な教育遺産として受け継ぎながら、今後の幼児教育・保育の課題にアプローチしていく附属幼稚園の立ち位置の重要性を提起した。

キーワード：奈良教育大学附属幼稚園 Kindergarten attached to Nara University of Education

幼児教育の歴史 History of Early Childhood Education

幼稚園教員養成 Initial Teacher Education for Kindergarten Teacher

1. はじめに

奈良教育大学附属幼稚園の歴史は、1927年4月、奈良県女子師範学校附属小学校のもとにあった後援会によって設立された私立幼稚園（昭徳幼稚園）が出发点であり、1928年4月に奈良県女子師範学校附属昭徳幼稚園となった。

これまで、奈良教育大学附属幼稚園の歴史について、戦前の附属幼稚園の発足から戦時体制下における幼稚園の生活について報告してきた。具体的には、1927年奈良女子師範学校附属小学校の後援会によって設立された昭徳幼稚園として出発し、官立奈良師範学校附属幼稚園となり、戦時体制下において保育を進めてきたこと（玉村・竹内、2015）、また、奈良県において最初に公開保育研究会を開催するなど幼稚園教育の普及への先駆となった

こと（玉村他、2016）を明らかにしてきた。

今日まで、少子化と勤労世帯の増加など、子ども・子育てにおいて地殻の変動があり、幼児教育・保育においても、こども園の制度化に示される歴史的転換点にある。このような歴史的転換点にたつて、発足から 90 周年を迎えようとしている附属幼稚園の蓄積してきたものを受け継ぎ、さらに発展させるということが求められている。

これまで、次世代教員養成センターでのプロジェクト研究を組織し、戦前における附属幼稚園の歩みの一端を整理してきた。それを踏まえて、本プロジェクトでは、奈良学芸大学附属幼稚園、奈良教育大学教育学部附属幼稚園、奈良教育大学附属幼稚園と変遷してきた戦後の附属幼稚園の保育と研究・養成を跡づけ、資料をデジタル化し、附属幼稚園を教材として教員養成に生かすことを目的としてきた¹⁾。

ところで、奈良女子師範学校附属幼稚園は、女子教員の養成において、初等教育の実習、小学校のみならず、幼稚園においてその実習が考慮されて設置されたという性格を持つ。したがって、戦前においては、「保姆」の養成ということでは必ずしもなかった。当時においては、奈良女子高等師範学校において、全国的な講習も実施されており、また、1919 年「保姆養成科」（修業年限 1 カ年）が設置されて、「保姆」の養成を行ってきた。奈良女子師範学校附属昭徳幼稚園の保姆も当初は奈良女子高等師範学校の卒業生が多く、1937 年に奈良県で初めて開催された公開保育研究会も、奈良女子高等師範学校で保姆養成の担当者が講師を務めていた。

戦後教育改革によって幼稚園が学校教育の体系に入り、それを担う幼稚園教諭の免許制度の確立と幼稚園教員の養成の全国的展開は、戦後の教員養成制度の整備と幼稚園教員免許の課程認定、そして教育大学・教育学部における幼稚園教員養成課程設置の本格化をもたらした。本報告では、附属幼稚園の歴史について、幼稚園教員養成とのかかわりで整理することを課題とした。

2. 戦後における附属幼稚園の変遷

附属幼稚園の歴史については、『附幼の 50 年』（1979 年）として 1979 年までの経過が詳述されており、その後の展開も含めて『奈良教育大学百年史』（1990 年）が大学の歴史に位置づけながら概括的な記述をおこなっている。その後の展開も視野に入れ、戦前、戦後を通して大学と附属幼稚園の変遷を図 1 に示した。

『奈良教育大学百年史』においては、奈良学芸大学から奈良教育大学への改称を区切りとして、戦後の大学の歴史を「再編期（1948 年～1965 年）」と「発展期（1966 年～1986 年）」2つの時期に区分している。その中に、附属学校園も、「再編」と「整備」として位置づけられている。附属幼稚園の歩みに即して、以下、それぞれの時期の特徴について概括的に示し、今後の附属幼稚園史の時期区分を展望しておきたい。

2. 1. 再編期

戦後学制改革に伴う再編期（奈良学芸大学時代）における「附属学校園の再編」の中に位置づく。戦後の新教育制度の下で、再編・再出発していくという特徴をもつ。

2. 1. 1. 戦後教育改革の下で

1947 年の新たな学校制度が発出し、幼稚園は正式に学校教育体系の一環に位置づけられた。新しい学校体系に基づいて、1949 年、奈良師範学校の大学昇格が実現し、奈良学芸大学が発足したが、それに伴い附属学校園の再編がなされ、1951 年に奈良学芸大学附属幼稚園と改称した。1945 年の敗戦から戦後初期の奈良学芸大学附属幼稚園は過渡的な状況であり、戦後初期は、小学校の校長と園長が兼務とされていた。ようやく、10 年を経て、1957 年から各附属に校園長が任命された。また、従来まで、幼稚園での教育を担ってきた代用保姆や嘱託保姆の免許下付制度が廃止され、幼稚園教諭資格を持った教員の充足が求められた。また、園舎の整備も課題となった。1960

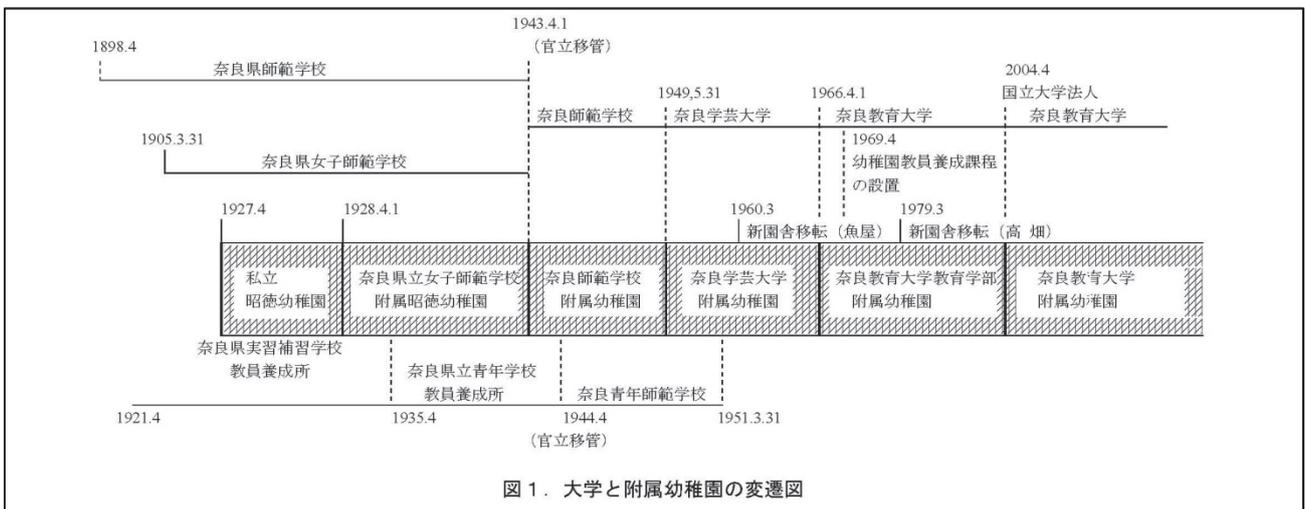


図 1. 大学と附属幼稚園の変遷図

年代をひかえて、保護者の協力の下、もともとあった幼稚園の場所から、附属中学校の移転により空くこととなった南側に新たな園舎を新築していくこととなった。

2. 1. 2. 園環境の整備と3年保育の先駆的確立

1960年3月、新たな園舎への移転がなされた。この園舎の新築は、大学の高畑移転、隣接した附属中学校の移転の実現により日程にのぼったものであるが、1959年度より実施された3歳児保育による環境整備の要求もあり、1958年頃から要望がだされていたものである。すでに1945年から奈良女子大学附属幼稚園では3歳児保育がなされていたが、新しい園舎での3歳児クラスの保育の実現は3年保育の先導的実施であった。園舎の整備とともに、園内環境として、プール、遊戯室、園庭などを整備していく。この間、学芸大学附属幼稚園は、1955年から1965年までの間に、奈良県下においても幼稚園が急増していく中で、文部省「保育要領」（1948年）に基づいた保育課程の開発など就学前教育の組織化と内容の体系化をすすめていく先頭に立った。

2. 2. 発展期

学芸大学から教育大学へと発展していった時期に位置づき、「附属学校園の整備」として特徴づけられる。1966年、大学自体が奈良学芸大学から奈良教育大学へ、学芸学部から教育学部へと名称を変え、教員の計画養成に対応していく。幼稚園も教育学部附属幼稚園となり、幼稚園教員養成課程が設置されていく。

2. 2. 1. 教育課程の開拓と幼稚園教員養成との接合

奈良教育大学教育学部に附属する幼稚園は、1966年10月には、3歳児保育も加えて「教育課程」を編集し、子ども中心の遊びや行事へと視点を移す保育の構想を提起している²⁾。後に詳述するが、1969年4月から、大学に幼稚園教員養成課程が設置され、その3年後には、本実習として幼稚園での実習がはじまっていく。これまで、幼稚園教諭免許所の取得はいわゆる「副免」としてなされてきたが、4年制の教員養成において、幼稚園教育の本格的な教員養成が本学においてはじまることとなった。

2. 2. 2. 5学級体制の確立と高畑移転

幼稚園教員養成課程の設置後、その教育実習を担うことも意識され、1970年代に入って、4歳児1学級増(1970年)、5歳児1学級増(1971年)が実施された。これによって、3歳児1学級、4歳児2学級、5歳児2学級の計5学級の幼稚園となった。園環境の整備が求められるとともに、大学との連携が密に取り得る環境への移転が課題となった。大学に隣接した場所の確保とともに、園舎の新築・移転への動きが始まり、1979年4月に幼稚園の新設・移転を実現する。

2. 2. 3. 教育課程の確立に向けて

1979年に大学東南に移転した附属幼稚園は、1980年代に入って、幼稚園教育要領の改訂を踏まえつつ、その時期ごとに教育課程を検討し、保育を刷新していった。具体的には、附属幼稚園の研究紀要として、「教育課程」がまとめられたのは、1981年、1990年、2001年であった³⁾。この時期の実践研究は、「保育を見つめる」とした年齢ごとの保育実践の深化、「幼児の生活」と「親子で育つ幼稚園」といったテーマで深められていた⁴⁾。

3. 幼稚園教員養成と附属幼稚園

本学の附属幼稚園の歴史を概観してきたが、その中で、大学との関係では幼稚園教員の養成が大きな課題となり、附属幼稚園の役割も、より幼児教育のモデルを示しつつ、幼児教育の担い手の養成への視野を広げてきたことがわかる。しかし、それは、本学附属幼稚園の歴史が、大学とともにあったことと同時に、全国的な教員養成および奈良女子大学など奈良に特有の養成の動向や諸関係を抜きに語ることはできないことも示していた。以下その整理を行い、国立大学法人化後の幼稚園の直面する課題を示してみたい。

3. 1. 幼稚園教員養成の全国的展開

附属幼稚園の戦後の歩みを概括してきたが、その役割は主に、幼児教育実践の蓄積をもとに幼稚園の教育課程のモデルを示すこと、幼児教育の担い手の養成、すなわち幼稚園教員養成の一環を担うことであった。同時に、それは、附属幼稚園自体の実践の継承を行い、子どもの発達と時代に即した地域の幼児教育の課題を明確にし、実践をさらに発展させていくことでもあった。

戦後教育改革の下での幼稚園教員の養成は、たとえば、1954年当時は次のような状況であった。4年制大学では、国立が、教員養成を主とする学部をおく大学（奈良学芸大学を含む）に奈良女子大学、お茶の水女子大学を加えた38大学、公立が大阪市立大学1大学、私立が5大学（京都女子大学、大阪樟蔭大学など）の総計44大学であり、短期大学が公立1校、私立14校（天理短期大学を含む）の16短期大学であった。

その20年後の、1975年には、4年制91大学、短期大学205の計246校となっていた。この過程では、急増する幼稚園の増設への対応として「円滑な幼稚園教員の需給」とともに、「指導的立場に立ち得る教員の養成」を目的として、国立大学に幼稚園教員養成課程を開設していくことが特徴である⁵⁾。すなわち、1966年度には、岡山大学、福岡教育大学など4大学、1967年には、東京学芸大学、京都教育大学、大阪教育大学など8大学、1968年度は、千葉大学他9大学、そして、1969年度には奈良教育大学他10大学に幼稚園教員養成課程が設置された。この幼稚園教員養成課程の設置に前後して、教育大

学・教育学部に新設の附属幼稚園が開園されたところも少なくなかった。

3. 2. 奈良における幼稚園教員の養成の経緯と附属幼稚園の担い手

そもそも、1912年に奈良女子高等師範学校の附属幼稚園が設置され、1919年には、奈良女子高等師範学校保姆養成科が発足し、「保姆」養成を行ってきたという歴史がある。奈良における戦後の幼稚園教員の養成は、どのような経緯と特徴を持つのだろうか。

3. 2. 1. 奈良女子大学における養成の経緯

戦後、奈良女子高等師範学校保姆養成科は改組され、1950年、奈良女子大学幼稚園教員養成所となり、さらに1952年、修業年限2年の臨時幼稚園教員養成課程となった。1963年、文学部教育学科に、臨時幼稚園教員養成課程(2年)の修了者で、さらに学部においてこの方面の研究に進もうとする学生のため特別措置として、新たに幼年教育学を主とするコースが設けられた⁶⁾。

しかし、教育大学・教育学部において、計画養成が強められる中で、開設以来50年近くにわたる幼稚園教員養成の課程は、1968年度をもって、その募集を停止した。1969年度、幼年教育に対する社会的関心と要望の増大を念頭に、この分野で指導的に活躍する女性の育成を重点とする文学部教育学科教育方法学講座が発足し、そこで受け継がれることとなった。

こうした経緯の中で、長年続いてきた幼稚園教員の養成は、奈良女子大学の中で課程認定は継続されながらも、奈良におけるその養成の重点は、奈良教育大学での幼稚園教員養成に移ることとなった。

3. 2. 2. 幼稚園教員養成課程の設置と附属幼稚園

奈良学芸大学・学芸学部の時代も、主として小学校の教員免許をとり、あわせて「副免」として幼稚園教諭免許状の取得は可能であった⁷⁾。教育大学・教育学部となっていく中で、小学校・中学校教員の養成のみならず、学校体系全体にわたる教員の計画養成のための整備がなされていく。1966年の奈良教育大学への名称変更と同時に、養護学校教員養成課程が設置され(定員20名)、その3年後、1969年には幼稚園教員養成課程が設置された⁸⁾。

小学校の教員養成と重ねて、幼稚園教育の6領域に応じて、1回生の終了までに、健康(体育)、社会(社会)、自然(理科)、言語(国語)、音楽リズム(音楽)、絵画制作(美術)、幼児教育(教育)、幼児心理(心理)の8専攻に分属して、履修を進める「独自の形態」をとり、教員も、保育内容の研究、幼児心理、幼児教育のそれぞれが、音楽科、心理学科、教育学科に分属併任形式という「異例」の形式をとった⁹⁾。

幼稚園教員養成課程の幼稚園実習は、1972年以後の実施となり、卒業生がでるのが1973年以後となる。1972

年から1979年までは、附属幼稚園は現在の奈良女子大学女子寮あたりにあり、附属幼稚園を担う教員も、奈良学芸大学出身者もあったが、京都女子大学、大阪市立大学、大阪教育大学など他大学の出身者で主に構成されていた。大学との関係がより緊密になってくるのは、附属幼稚園の高畑移転後である。さらに、本格的に、幼稚園課程で学んだものが、幼稚園の保育と管理・運営を実質的に担っていくのは、法人化後であった。

3. 2. 3. 教員養成課程の再編と国立大学法人の下での附属幼稚園

1990年代後半、財政構造改革の中で、省庁改革がすすめられ、大学の再編が進行した。大学においては、教員養成課程の再編が検討され、1999年4月、小学校課程、中学校課程、養護学校課程、幼稚園課程を統合して、学校教育教員養成課程が設置されるにいたる。それまでの幼稚園教員養成課程は学校教育教員養成課程に統合され、幼・小の接続を意識した位置づけの変更及び規模の縮小をとまう、教育・発達基礎コースの幼年教育履修分野となった(その後、教育発達専攻幼年教育専修)。履修分野・専修の責任指導体制が敷かれることとなった。

2004年、国立大学の法人化によって、国立大学の設置・存立の基盤の変更がなされた。国立大学法人法の下で国立大学法人奈良教育大学となり、幼稚園も、国立大学法人奈良教育大学附属幼稚園となった。管理・運営面での大学との関係、学部・大学院教育への関与と教育実習、実践研究などの面で附属学校の役割が検討されていくこととなった。実践研究の面では、「自尊心の育ち」(2005年)、「一人ひとりが輝く保育(特別支援)」(2008年)、「教育課程」(2009年)、「からだ力」(2011年～)をテーマに、実践研究をまとめ、「自尊心」「からだ力」を基礎として、遊びを中心とした幼稚園実践を構築してきた。その一方、少子化の中での附属幼稚園の将来構想の検討も課題となってきた。子ども・子育て支援の枠組みをめぐって、認定こども園ができ、また、2012年、「子ども・子育て支援法」の成立、「認定こども園法」改正がなされた。大学では、「保育教諭」養成の課題や奈良市幼稚園のこども園化の方向などに鑑み、保育士資格の取得が可能となるよう整備してきた。附属幼稚園の将来構想もまた、大学、奈良県の動向、地域の子育てをめぐる状況、小学校との接続など総合的な観点から、実践研究、教育実習など、子どもの発達を保障する新たな幼児教育・保育とその担い手の形成・養成の課題に応えるものとして考えられなければならない。

4. おわりにかえて

あらためて全国の都道府県を見てみると、複数の国立大学附属幼稚園を持つところはほとんどない。別法人の国立大学法人で複数の附属幼稚園をもつ県は、奈良県と

ともに、東京都（東京学芸大学附属幼稚園、お茶の水女子大学附属幼稚園）、兵庫県（兵庫教育大学附属幼稚園、神戸大学附属幼稚園）の3都県である。戦前から複数の幼稚園の設置県は奈良県のみであり、奈良女子高等師範学校の附属幼稚園の設置の後に、奈良女子師範学校附属小学校後援会によって私立として開設され、女子師範学校附属幼稚園になっていった本学の附属幼稚園の存在は、歴史的には極めて希有な存在である。このような特異な歴史と、その後の独自の努力、幼稚園教員養成との関わりや、子ども・子育て施策の変化の中で、全国的な動向と共に、奈良県下の動向、さらに、奈良女子大学附属幼稚園との共存など、考慮すべき課題は多い。本学の幼稚園が、将来どのような方向をめざしていく必要があるか、課題はなにか、未開の地を手探りで進む他はない。

附属幼稚園は、今日に至るまで幼児教育とは何か、子どもにとって必要な環境、重要な援助とは何かを問い続けてきた。歴史の中で、保育の意味やねらいを受け継ぎながら、現代の子どもの姿と照らし合わせ、新しく実践を作り出す日々である。近年は、少子化や、就労形態の多様化、情報化社会による急速な環境の変化等が進んでいる。幼児期の保育が家庭のものだけではなく、第三者による長時間・長期間保育へと以降しつつあり、子どもが通う場も、幼稚園や保育所、こども園と、多様化してきた。だからこそ、これまでの幼児教育の歴史を踏まえて丁寧に積み重ねられた保育理念の継承、またその現代的な実践の展開が求められる。附属幼稚園が長い歴史の中にあるということは、近年の社会の変化や子どもの姿を目の当たりにする現代の保育者が、それらをたどって学び、現代に必要な新しい保育を形成していける可能性が附属幼稚園にはあるということだろう。

注

- 1) 本プロジェクトは、「戦後における附属幼稚園の保育・研究・教員養成の歩み—戦後資料のデジタル化および附属幼稚園保育史の教材化」をテーマとしてきたが、戦後の附属幼稚園のあゆみを跡づけることを課題として、国立大学法人化前後の保育日誌と年誌の整備、高畑移転以前の幼稚園についての比留間みどり元副園長への聞き取り、附属幼稚園研究紀要のデジタル化などをおこなってきた。
- 2) 1956年幼稚園教育要領の編集、1964年幼稚園教育要領改訂があった。
- 3) 1989年3月改訂幼稚園教育要領告示、1998年12月改訂幼稚園教育要領告示、2008年3月改訂幼稚園教育要領の告示。
- 4) 1980年代から2003年までの幼稚園の研究紀要のテーマは以下の通りである。「教育課程」(1981年)、「遊びの深まりと仲間づくり」(1988年)、「教育課程」(1990年)、「保育を見つめる(3歳児)」(1993

年)、「保育を見つめる(4歳児)」(1995年)、「保育を見つめる(5歳児)」(1996年)、「幼児の生活を見つめる」(1998年)、「親子で育つ幼稚園をめざして」(1999年)、「同前」(2000年)、「同前」(2001年)、「教育課程」(2001年)、「親子で育つ幼稚園をめざして：父親の役割」(2003年)

- 5) 「将来、指導的立場に立ち得る教員の養成を図るとともに、今後の幼稚園教員の円滑な需給にすることを目的として、昭和41年度から国立の教員養成大学・学部で幼稚園教員養成課程の設置を進めており、昭和51年度までに27大学に29課程を設置した」(文部省、1979)
- 6) 奈良女子大学六十年史編集委員会『奈良女子大学六十年史』(奈良女子大学、1970)。
- 7) 戦後初期の幼稚園免許状に必要な科目の本学での展開や、その取得状況についての詳細は不明である。他日を期したい。
- 8) 本学の養護学校教員養成課程の歴史的変遷については、『障害児研究室50年の歩み』参照。なお、この時期、障害児教育の分野でも、それまで設置され、障害児教育の教員養成を担ってきた臨時養成課程(2年制)は、4年制の大学の中に位置づけられ、再編されていくこととなる。奈良女子大学の附説されていた幼稚園教員養成課程の廃止と本学での幼稚園教員養成課程の設置と類似する展開をしていた。
- 9) 『奈良教育大学百年史』pp.767-768

参考文献

- 附幼50周年記念誌編集委員会(1978),『附幼の五十年—創立50周年記念誌』奈良教育大学教育学部附属幼稚園。
- 文部省(1979),『幼稚園教育百年史』ひかりのくに。奈良女子大学六十年史編集委員会(1970),『奈良女子大学六十年史』奈良女子大学。
- 奈良教育大学(1990),『奈良教育大学百年史』奈良教育大学。
- 奈良教育大学障害児学研究室・奈良教育大学障害児学研究室同窓会(2016),『障害児研究室50年の歩み』奈良教育大学障害児学研究室。
- 玉村公二彦・竹内範子(2015),「戦前における附属幼稚園の実際—保育体制と保育内容を中心に—」,奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要,第1号,pp.387-391.
- 玉村公二彦・板橋孝幸・横山真貴子・竹内範子・長谷川かおり・木村公美・丸尾晶子・山本祐子・百村美代子・清水智佳子・大原千晶(2016),「奈良女子師範学校附属昭徳幼稚園における保育理念と保育案—保育研究会(昭和11年10月8日)史料を中心に—」,奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要,第2号,pp.223-228.